

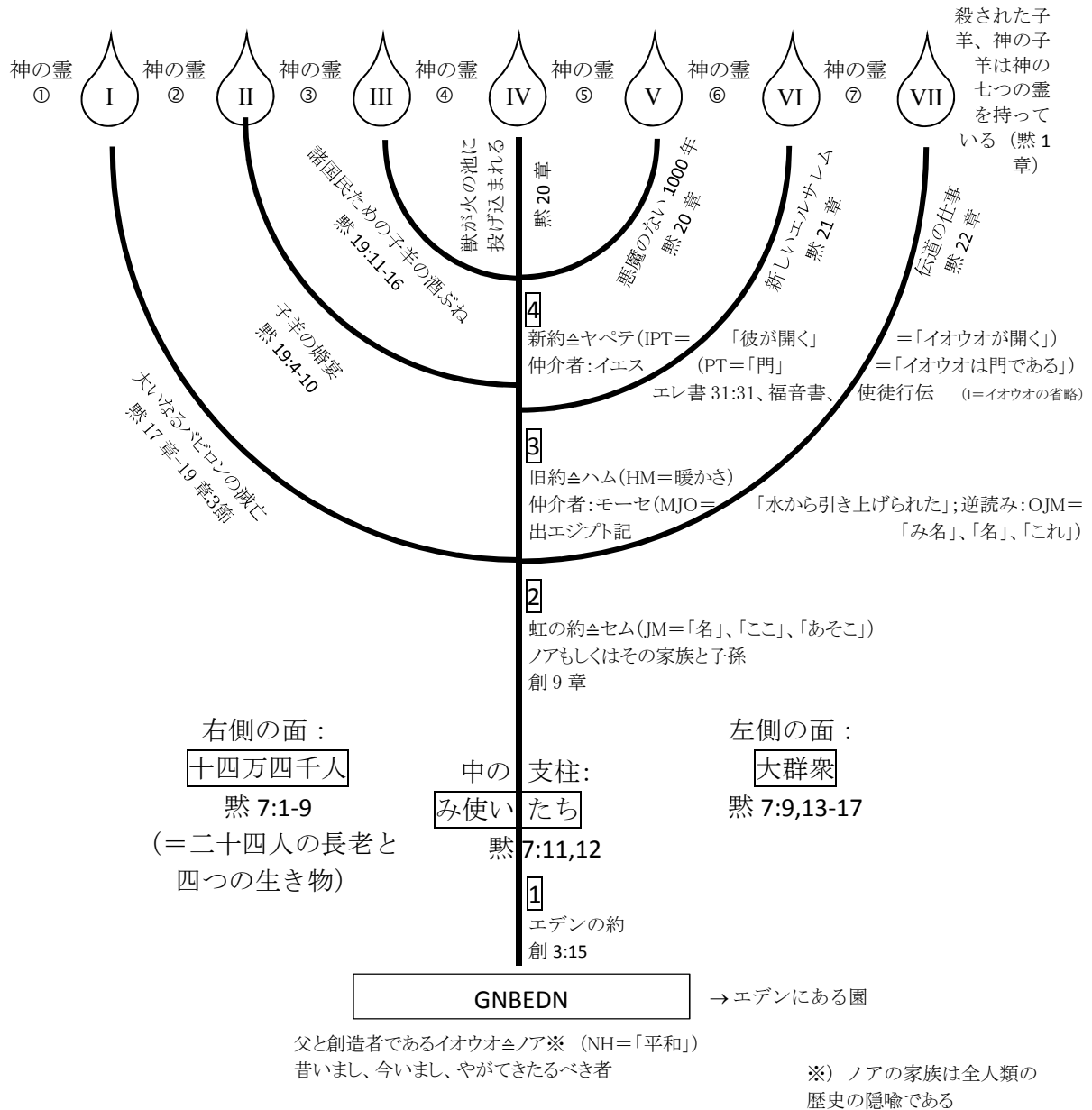
黙示録に ついての 感想

(内容は絶対に正しい事は
出張しない—ただのアイデア)

原版：2020年6月21日、22日

翻訳：2020年7月12日

第一の炎	第二の炎	第三の炎	第四の炎	第五の炎	第六の炎	第七の炎
黙 2 章-3 章 七つの会衆への七つの手紙	黙 4 章-5 章 神の御座の周辺	黙 6:1-17 黙 8:1-5 七つの封印	黙 8:2,6-13 黙 9:1-11:19 七つのラッパ	黙 12 章-13 章 女の出産	黙 14 章 七人のみ使い (子羊を含む)	黙 15 章 黙 16:1-16 七つの鉢 (そこも七人のみ使いがいる)

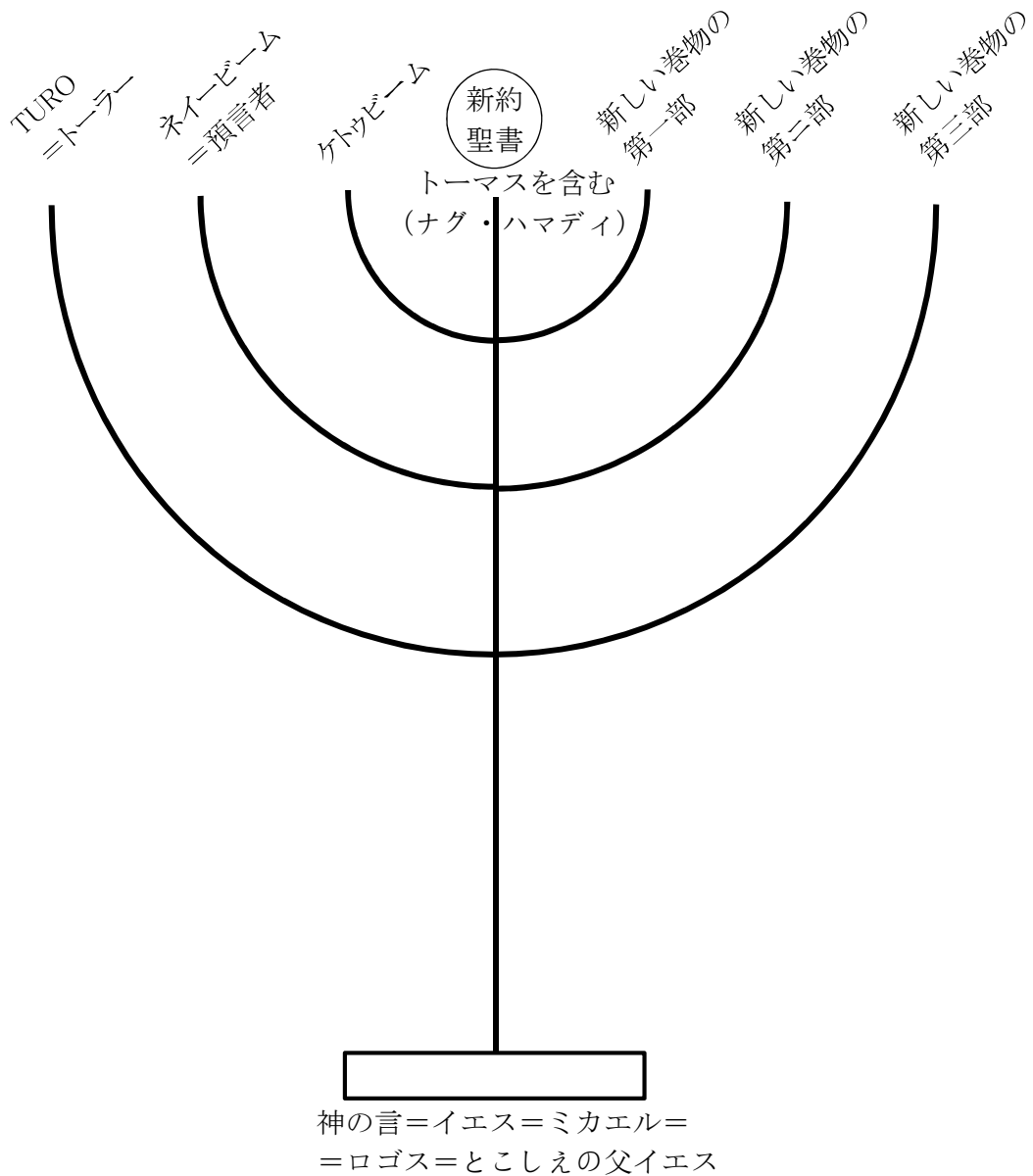


七つの炎の各炎は終わりの時の全体をテーマとしている

七人のみ使い(黙 14 章)の一覧: →第七の炎	第一のみ使い	黙 14:6,7
	第二のみ使い	黙 14:8
	第三のみ使い	黙 14:9-13
	第四のみ使い	黙 14:14-16 = 人の子△子羊 (黙 14:1-5)
	第五のみ使い	黙 14:15
	第六のみ使い	黙 14:17
	第七のみ使い	黙 14:18-20

黙示録に関して：

聖書と 似た構造



詩篇 { スーン=】 (アクロスティック) :
119 編 { 「あなたのみ言葉はわが足のともしび、
105 節 { (≒燭台)
わが道の光です。」

口語
約を
参照

ともしび = NR, NIR (= 「明かし」、
「ろうそく」)
燭台 = MNURO (灯に由来する)
光 = AUR (女性名詞)
(= 「照明」、「明るい」、
「稲光」、「日」、
「朝」、「太陽」；ウル市の
意味も参照)

七つの会衆への手紙

(終わりの時の一覧)

黙示録 2 章-3 章
燭台の左外側の炎

- 1) エペソ
1912 年: 終わりの時が始まる—イエスは天で王位につかせられる。
1914 年: 第一次世界大戦
伝道の仕事が始まる:
クリスチャンの初めの愛は、原始キリスト教と同じようになるように回復させる必要。
- 2) スミルナ
十日間の苦難と獄:
ヒトラーの強制収容所での真のクリスチャンの迫害、第二次世界大戦で世界中の迫害(その後も続けた)
- 3) ペルガモ
部分的な迫害にも関わらず、神の道を(クリストの御名によって)堅持している(マラウイなどで、アンテパスのように)。
バラムは強欲と言う攻撃を意味してる(経済奇跡など)。
ニコライは宗派と言う攻撃を意味してる(部分的にエホバの証人、サイエントロジーなど)。
- 4) テアテラ
イゼベルという攻撃は 60 年代以降の性革命である。
聖書が禁止している色々な行為(同性愛など)は社会的に容認されるようになる。
イゼベルはこの世の悪いものに対しての愛をも意味している。神に対しての不倫である(ヤコ 4:4;一ヨハ 2:15f)。
- 5) サルデス
それを克服する者は、白い衣を着る(救い出す正義)。その者はただ生きている(=狭い道を歩む)ように見えて、実際に死んでいる(=思慮の浅いおとめとして広い道を歩む)のではない。
- 6) フィラデルフィヤ
14 万 4 千人は皆最終的に刻印を押された。皆が揃っている(黙 7:1-9)。大群衆に印をつける事が完成された(エゼ 9:4,5;黙 7:9-13)。
- 7) ラオデキヤ
終わりの時はコロナ、または悪い者と正しくない者の吐き出す事で終了する。イオウオとその御名に対しての放漫な態度のためである(ヨブ 34:14,15)。その後に、人類の三分の二が死んでる(ゼカ 13:8,9)。終わりの時では、ハルマゲドンの後に、イエスの千年統治が始まるまでに、中間がある:子羊の婚宴がハルマゲドンで始まる。14 万 4 千個の冠が配られる(黙 3:20,21)。

七つの天の御座の物
(神の御座の周りにある)

黙示録 4 章-5 章
燭台の左中側の炎

- △天のイスラエルにある雲の柱
- 1) 真ん中にある御座の上にイオウオが座っている(黙 4:2,3)。
彼は冠を被っている。崇拜されるのは、彼のみである(黙 4:10)。
「冠」という表現はここで使われない。王として支配するに興味は大きくないみたいである。父、牧者、友である方が好きみたいである(詩 23:1; REI=「わが牧者」、「わが友」)
- △至聖所
- 2) 神の七つの霊(人物ではなく、神の力の効果)は稲光、もろもろの声と雷に伴う炎のように御座から出ている(黙 4:5; 黙 1:14; 2:18; 3:1; 5:6 をも参照)。
稲妻=反乱と暴動
もろもろの声=終わりの時の政治と宗教上の論争
雷=終わりの時での政治の不穏
- △聖所 (第二の四角)
- 3) 昔、幕屋の庭の周りにレビ族がいたと同じように、四つの生き物が御座の周りにいる。昔、レビ族がすべての部族の初子を身代わりであった。14 万 4 千人の初子の身代わりは 12 部族の各 1 万 2 千人から取っていて、第 13 部族のダン族になる(黙 7:5-8)。4 節によると、14 万 4 千人はイスラエルすべての部族から取っている、それはダン族をも含む。霊的なイスラエルはすべての勝った者であり、油注がれていないも含む。黙 5:8,9 によると、4 つの生き物も、二十四人の長老も新しい歌を歌っている。新しい歌を歌えるのは、14 万 4 千人のみなので、4 つの生き物も、二十四人の長老も花嫁の数(14 万 4 千)となる。
- △聖所 (第一の四角)
- 4) 四つの生き物(人間=愛、鷲=賢さ、獅子=正義、雄牛=力)の周りに、24 個の座があり、その上に冠を被っている二十四人の長老が座っている。彼らも王冠で支配すること(この世の殆どの王と違って)に重点を置かないから、その冠を神の前に置き、栄光を要求せず、牧者兼父イオウオにすべての栄光を譲る。要点: その中の一人になりたい者には、冠の支配を志望することを許さない。二十四人の長老は、黙 7:5-8 の 12 部族で、各 1 万 2 千人マイナスダン族の部分である。ダン族は 14 万 4 千人の本当の初子の身代わりで、新しい部族を形成する(昔のレビ族のように)。花嫁という目的を達成しない油注がれた者一実は、大勢の者一は地上の命で王として信者の支配を始まる(一コリ 4:8; 私の本„Das Wort ‚Herr‘ in der Bibel“「聖書における「主」と言う表現」(ドイツ語のみ)の p. 23,46,37 をも参照)。
- △庭にある洗盤
- 5) 水晶に似たガラスの海(幕屋の庭にある洗盤に似ている)は神のその他忠実な生き物の群衆を意味している。それはみ使いである(黙 5:11)。水は純粋を意味している(聖書の一番初めの言葉: BR=井戸→隠れたメッセージ)。み使いは地上(=正しい者)と地下(=亡くなった、もうすぐよみがえる正しい者)の忠実な者、そして海(=まだ悔い改めれるからよみがえる正しくない者)と一緒にイオウオと子羊を賛美している(黙 5:7-14)。
- △燔祭の祭壇
- 6) イオウオの右手にある、誰も開けない本(七つの封印)(黙 5:3)。
庭にある燔祭の祭壇を意味している。本当に正当な贖いだしの捧げ物は、イスラエルの時に一度もその上に捧げられなかった。
- △脂肪の灰の山
- 7) 子羊、ユダの獅子が寄ってきて(ダニ 7:9,3-15 の幻を参照: 彼は日の老いたる者すなわちイオウオに来る)皆の中に立つ。彼は神の祭壇でいけにえとして屠殺される事に完全な心構えを持っていて、勝者になったから、本を開くことにふさわしいである。彼が封印を解く事の許可を持っている。子羊のイオウオに対しての愛の為に、屠殺に至るまでの、完全な、遠慮のない献身を証明したから、脂肪の灰の山を意味している。すべてはイエスこの献身に次第であった。もし彼の献身が不十分だったら、屠殺される事も封印を解くのに足りなかったのである。

七つの封印

黙 6:1-17 ; 黙 8:1-5
燭台の左内側の炎

- 1) 第一の封印 黙示録の四騎士の白馬に乗っているのは、1912 年天で王位についたイエスである („Kommentar zu Auszügen aus dem Buch Daniel“「ダニエル書の抜粋にのコメント」(ドイツ語のみ)を参照)。彼は(弓を手に持って)天で戦闘を始まる。
- 2) 第二の封印 黙示録の四騎士の赤馬に乗っている者は地上から平和を奪い取る:1914 年、第一次世界大戦が始まり、そして 1939 年、第二次世界大戦が続く。2003 年の第三次世界大戦(35ヵ国が参加するイラク戦争)が起こり、2010 年のアラブの春(第四次世界大戦で終わる)ともっと小さい規模の戦争が続く。1945 年の第二次世界大戦の終わり以降、可能であれば、イオウオが戦争の希望を小さくし続ける:「イオウオは地のはてまで戦いをやめさせ」る(詩 46:9)。
- 3) 第三の封印 黙示録の四騎士の黒馬に乗っている者は、世の飢餓と栄養失調である。終わりの時、第二次世界大戦以降、沢山の民族はそれを経験してきた。
- 4) 第四の封印 黙示録の四騎士の青白馬に乗っている者は、終わりの時の非常にたくさんの人の早期死亡である。
(ここで「黄泉」、「地獄」などの翻訳は間違っている。→ただの「墓」の意味である。「ハデス」は新約聖書のギリシャ語で「墓」の意味である。旧約聖書の「シェオル」に対応する。ユダヤ人は昔不滅の魂と地獄という神の刑罰の事を信じなかった。新約聖書にある「ゲヘナ」も永遠の死(=非存在)ただの隠喩である(黙 20:14)。愛である父は地獄を使わない(エレ 32:35 を参照))。
戦争(=つるぎ)、飢饉、ガンなどの病気(thanatos=死)と流行病(コロナも含む)が早期死亡を引き起こす。ここでよく「獣」と翻訳された therion という表現は、主に細菌とウイルスを意味するであろう。
- 5) 第五の封印 終わりの時の殉教者:強制収容所、マラウイ、東側、全世界ではクリスチャンと「慈善家」が殺られたり、あるいは死刑と相当する迫害されている(破門、会衆からの排斥→三ヨハ:デオテレペスデ)。それは完全な口止めも意味をするであろう。このような殉教者に白い衣をが与えられる。それは正義である。正義は死から救い出し(箴 11:5)命の木である(箴 11:30;箴 3:18 をも参照)。私と私の家族はこのような迫害され、排斥された殉教者である。
- 6) 第六の封印 大きな地震(seismos=「揺れ」;黙 16:18:「いまだかつてなかった」、 “Basic Thoughts on Corona“ 「コロナについての基本的な考え方」をも参照)はコロナという新しい病気で、世での爆誕である。世界を揺るがしている。
太陽が暗くなる:宗教はもう人の助けとならなく、もう黒い袋だけである。
血のような月:(月のような)法律はもう足りない。赤色の共産主義と同じようにコロナ関係の法律は急いで成立され、早く変更される。
星は地に降りる:コロナに対する無力のせいで、世の勢力家は名誉と勢力を失う(トランプ氏など)。
天は消え去り、山と島が移される:国連と欧州同盟は弱くなり、様々な政府(山)と組織(島)もそうである。皆が子羊が怖いである。世の裁き主イエスはだと分かるが、彼を口にせず、身を隠す。イエスは報道で無視されているから、それでも泥棒のように来る(黙 1:7:「雲に乗って」;黙 16:15;二ペト 3:10;一テサ 5:2,4;箴 1:22;二ペト 3:3,4;ユダ 18,19)。イオウオ神と子羊イエスの怒りの日が来た。誰が耐え得よう(マラ 3:1,2f) ?

- 7) 第七の封印 大きな静けさ:世界保健機関は(2020年3月11日に)コロナをパンデミック(世界的な汎流行病)と宣言する。
静けさ=コロナ感染の恐れのため、全世界はロックダウンされる。すべてが止まる。飛行機は飛ばない、車が走らない、工場などは停止する。

七つのラッパが七人のみ使いに配れて、第八のみ使いは祭壇に香を捧げる(香の祭壇は聖所にある)。そして香の器にも香を捧げる(香の樽、パウロはヘブ 9:21 これについて話す)。

この香の器は至聖所にある香炉を置くための香の台であろう。大祭司は年一回贖罪の日、契約の箱の上なる贖罪所(≒神の御座)の前に行って、雄牛とイオウオのやぎの血を指で贖罪所の上と前に注いだ。血の器と香炉を両方を持つと、手がふさがっているから、高炉を置ける台が必要だったであろう(レビ 16 章)。

薫香を焚く:(聖人=油注がれた忠実な者の)たくさんの祈り
→この日のたくさんの揺れ(=地震)に影響を及ぼす。

七つのラッパ

黙 8:2,6-13; 黙 9:1-11:19

燭台の真ん中にある、第四の炎

燭台の真ん中の支柱とその炎

真ん中の炎はラッパを意味する。特に、パウロが述べるラッパである:

最後のラッパ=ハルマゲドンあるいはそのすぐあとに天に引き上げられる事(一テサ 4:16)。

- 1) 第一のラッパ
黙 8:7 (血=共産主義の混じった)無神論は基督教の国でも基本的な考え方になる。ダーウィン説と進化論は事実として教えられる。地の三分の一を焼けて(=基督教)、木と青草の三分の一を焼ける(基督教はもはや生命(=青)をを与えない)。
- 2) 第二のラッパ
黙 8:8 燃えている山が海に→すべての三分の一が血になる:1917年11月の十月革命以降、共産主義が世界に普及する。海は信仰を殆どあるいは全然持っていない人間の群衆を意味している。掻き乱されて海のような。船はふつう海を超えられる→でも、不信仰はもはや超えられない。何百万人の信者が共産主義者になる。
- 3) 第三のラッパ
黙 8:10 エホバ崇拝(特にエホバの証人)の崇拝は川と水源の三分の一に普及される=その名前は世界人口の三分の一に伝道される。愛である神にとって、それは苦い名前である。(モリヤ=神殿の丘=イオウオの苦さ; „Das Wort ‚Herr‘ in der Bibel“ 「聖書における「主」と言う表現」と „Dein Name ist nahe“ 「あなたの御名は近い」(ドイツ語のみ)を参照)。そのために、終わりの時にたくさんの人が死ぬ。
- 4) 第四のラッパ
黙 8:12 太陽が暗くなる(=世界の宗教、黙 18:23):すべての宗教組織(エホバの証人と聖書研究生を含む)は人の心の支えとならない。彼らの決り(組織に対する忠義の要求)は月のように悪霊の崇拝に繋がる(ミカ 4:5→יהוהの代わりに「主」、「ヤーウェ」、「エホバ」、「イエウエ」などの使用はその原因である)。星も人の心の支えとならない:この世の勢力家は反聖書の法律と行動で神を冒瀆するので、闇の中にいる。
- 5) 第五のラッパ
黙 9:1-12
(詳細 p.9) いなご:クリスチャンの中のすべての油注がれた者である。一部は忠実な者なので、花嫁の一員である。一部は半忠実なので、地上の君たちになる(詩 45:16 か 17)。それ以上の部分は悪い僕の悪者である(マタ 24:48f)。
- 6) 第六のラッパ
黙 9:13-11:14
(詳細 p.11) 二億人の騎士:終わりの時、全世界で福音(=吉報)を宣言している伝道者を意味する。皆が油注がれていない者で、様々な組織に属していても、基本的に個人で戦っている。
- 7) 第七のラッパ
黙 11:15-19
(詳細 p.17) 国民が緊張すると、神の緊張も来る。神が古い世界秩序を終結させる:裁きの日の最後の審判(緊張=ORGÄ=「憤り」、「いらだち」、「不安」)。

第五のラッパの追加(黙 9:1-12)

底知れぬ所の穴のかぎ(黙 9:1):

もう創世記の始めは、底知れぬ所を述べる:TOUM=「深淵」、「深海」(付録にある、創世の話の自分の翻訳を参照、ドイツ語のみ)。底のない水体である。

底知れぬ所の穴=VREATOS TĀS ABUSSOU

Strong 辞書 G5421: VREATIS VREAR =(水の貯留などの理由ために掘られた) 穴倉、例えば水槽か井戸; 比喩的に(監獄としての)深い淵—「井戸」、「穴」

ランゲンシャイト辞典:VREAR=「井戸」、「水槽」

ABUSSOS

Strong 辞書: 「底のない」;「深い淵」—深い、(底のない) 穴

Langenscheidt 辞書: 「底のない」、「底の知れない」、「深い淵」

Thayer 辞書: (OBUSSOS から → BUFOS)

「底のない」、「際限のない」 (旧約聖書:TOUM) [それに Gesenius 辞書:
「深い」、「海」、「深い淵」、「地下水体の深さ」、「深海」、「原始の大洋」;
「深い」、「深い淵」]

引き続き Thayer 辞書: 「計り知れない深さ」、「深い淵」、「深海の深さ」:Gn 1:2;

「オルクス」(地の一番深い所の割れ目か)

[詩 71:20; 95:4 などを参照;間違った地獄の教えに帰着する翻訳]

大量の水が放射能から守るので、ここで人間が生きれない深海の意味しているかもしれない。太平洋の一番深い溝の底で悪魔が 1000 年間に監禁される可能せいがある。もちろん、悪霊が絶対放射能のあるだと言わないけど。

「鍵」の話があるから、ここで霊の監獄の計画があったことを意味する。

TOUM からの煙は比喩的に解釈した方がよい。井戸からの煙?もし、水が入っていたら、せいぜい蒸気が出るかも知れない。深海の火山から煙が出る可能性が高い。それで太陽が暗くなり、空気がむっとする(第 2 節)。

この煙からでるイナゴ?ちょうど火山が噴火する時、イナゴの群れがその上に迷った?これ全部は比喩だけであろう。

太陽は世界の政府のシステム(獣)を意味している(あるいはここでも世界の宗教に対応している)。それは暗くなる。たとえば、油注がれたエホバの証人は神の戒めに対してサソリの針のように忠実であった。ヒトラーを従うよりも、強制収容所での迫害の方を選んだ(ヤコ 4:4)。このような態度では、歴史にたくさん例はある。それはエホバの証人に限らない。

そのうえ、聖書の伝道そのものもサソりに刺されるようである。死から死に至らせるかおりである(二テモ 4:3,4; コリ 2:15,16)。もちろん、伝道を聞くだけ、直接死に繋がらないのである。

イエスの花嫁になるように招かれたイナゴの王は、もちろんイエスである(=アバドン=アポロン=「破壊者」)。そのために、皆は女の髪の毛がある。獅子のように、ユダの獅子イエスを従っている。

しかし、「花嫁の一員」になるという目標は、すべての招かれたものは達成しないのである („Das Wort ‚Herr‘ in der Bibel“ 「聖書における「主」と言う表現」、p. 23,46,47 を参照)。

五か月間、苦しめるだえが許されている。それはイナゴの寿命である。ギレアデ伝道学校の設立 (約 1941 年) から、1991 年エホバの証人の組織の非政府機関として国連との提携したまでの 50 年の期間に暗示するかもしれない(すぐに明確にはならなかったが、2001 年イギリスの「ザ・ガーディアン」紙に露出された)。この期間で、エホバの証人はよい便りで人間を苦しめたが、1991 以降、サソリのような毒を失った。ヤコブ 4:4 が述べるように、遊女になってから、もはや苦痛を与えなかったのである。

イオウオは遊女に祝福と霊的な刺す力をあたえない。黙示録 17 章と 18 章 (特に 23 節) が明確するように、大いなるバビロンのこの遊女の娘の中では、花婿イエスとイエス・キリストの花嫁の声はもはや聞こえなかった。この声は消えた！イオウオの支持を失ったから、彼らの家は見捨てられてしまう (マタ 23:39)。

今日は、エホバの証人の活動は死んでいる (サルデス会衆とラオデキヤ会衆を参照)。神の御名「イオウオ」を受け入れなく、その名を拒絶したから (1981 年以降) 彼らに何の知恵が残っている (エレ 8:9) ?

(www.iouo.de にある „Dein Name ist nahe“ 「あなたの御名は近い」という本などを参照)。

第六のラッパの追加(黙 9:13-21)

2 億騎士(天に引き上げられる事に関する通信を参照;付録にある)

原文:	DISMURIADES	MURIADWN	(Dietzfelbinger か Brown の行間
	2×1 万人	1 万人の(=×)	翻訳を参照)
騎士軍の数:	2 万人	×	1 万人 = 2 億人

どのキリスト教の組織でも、唯一にその 2 億人の騎士、もしくは福音(=来たりませ!)の伝道者を供給する事を出張できない(黙 22:17)。

すべてのキリスト教の組織を一本の木にたとえる事ができる。その木はたくさんの枝と小枝、もしくは組織がある。しかし、組織を代表するのは、木材にすぎない。神はこの木から求めるのは、果実である。どの枝と小枝でも、同じ実を結んでいる。それは愛である(1テモ 1:5→われらの信仰の目標)。自分が果実に属せず、木材だけに属する事がある。木材は最終的に燃えて灰になる(愛→思慮深い乙女が結ぶ実;木材→思慮浅い乙女が結ぶ実;マタ木材 25:1-13)。

組織自体はいつも木材に過ぎない!ある日、もはやどの役にも立たないであろう(黙 17 章と 18 章)。エホバの証人を含む、すべての宗教的組織は滅びの運命づけられている。皆が典型的な大いなるバビロンの行動を表し、きわめて悪い実を結んでいる。それをこりリストアップする必要はない。すべての愛でない実(エレ 23:35 を参照)。

どの組織に属していても、個人としては愛を発展できる。長年、エホバの証人としてイスラム教徒に伝道したので、非キリスト教の組織でもその愛を発見した。そこでも、たくさんの良い事を経験した。私の息子は東欧の言語を勉強したので、あそこの宗教の良い所も見た。どこでも、傑出する事がある。こんな宗教に属する者が自分の良心を従う事が。そして、パウロが述べたように、自分自身が立法になり(ロマ 2:14)、自分の救いに繋がる、愛と言う実を結べる。たくさんのクリスチャンの方が悪い。この木の生き血は神の霊、もしくは良いの霊なのに、彼らは木材のままであり、発展しない。ある枝(=組織)は全体的に神の霊を捨てると、完全な枝が枯れる。実を結ばない枝になる。

それゆえに、今のハルマゲドンで人類の三分の一が救われる事を信じるのは、おかしくない(ゼカ 13:8,9 →「アレッ」の意味は「土地」だけでなく、「地球」も含む;全世界に関わる予言である)。この場合、2 億人の伝道者が必要である。エホバの証人が主張しているように、「ものみの塔」の 2 億冊の印刷物は決して足りない。

一番必要なのは、「イオウオ」という神の正しい御名を伝道するなのである(ゼカ 14:9;ゼファ 3:8-12;ハルマゲドン直後、神の真の名が知られていることは、どんなに大事なことであるのは、イザ 1 章-3 章が示している;ミカ 4:5 を参照→エホバ=偽りの神、ヤハウエ=偽りの神、主=偽りの神、イエウエ=偽りの神、など→その神は救わない)。

黙示録 9:14 では、大ユウフラテ川の話がある。その川はバビロンを通し、「יהוה」という神の名と同じように、エデン園の遺物である(チグリス川もそうである)。人類はエデン園からその唯一の霊的な遺物を眼玉のように大事にし、今日まで保存する義務があった。しかし、ほとんど全体の人類が、この長い間ほとんどの時、神の至聖になるイオウオという御名を、その神もしくは父から受けたその遺産を完全に忘れた(エレ 23:27;詩 44:41;詩 74:10,18)。

モーセの律法の十戒の第三戒めは、神の名を無礼で扱う事を禁止する(„Dein Name ist nahe“「あなたの御名は近い」という本などを参照)。そして、イエスの時以降、クリスチャンは主の祈りで「御名があがめられますように」と祈っている。何十万人の信者が毎日それを祈っているから、その願いは今まで何兆回も言われた。しかし、御名がわずかの時現れた。

組織としてこの名を軽蔑したのは一番悪かった。黙示録 17 章と 18 章で、大いなるバビロンとして有罪の判決を受ける。バビロンの生命線、もしくは大ユウフラテ川はエデン園の楽園に源を発したのに、神の真の名「イオウオ」を持つ本当の命の血をそこに運ぶ事ができなかった。文字通りにバベルへ運べなかった。霊的な意味で全世界に運べなかった。四人のみ使い(イオウオという名の四つの文字＝四文字語と対応してうる)は大ユウフラテ川の霊を見守ったのに。もうすぐ、偽りの宗教組織はこの生命線から切り離されるだろう。裁きの時はもうコロナと一緒に来て、四人のみ使いが四方の風を放した(黙 7:1; 黙 9:15)。その日が来た: 人類の三分の一がそれによって死ぬ。引き続き、もう一つの三分の一が死ぬであろう(ゼカ 13:8,9; 黙 9:20,21)。第七のラッパ(黙 11:15)までに、騎士の数が少し増える(黙 10:1-11:14)。

書き留める禁止の七つの雷、第七のラッパの時の成就される奥義、小さな巻物、神殿の測定、あらゆる災害で地を打つ二人の証人の話がある。そして、深い淵からある獣が二人の証人を打ち勝ち、彼らを殺す。彼らはよみがえ、天に引き上げられてから、大きな揺れ(=地震)が起こる。

上記の点のほんの少しの説明に挑戦しよう。あっている部分はイオウオの御霊から来ている。あっていない部分は私のみの間違いである。それを誉れのためしない。誉れに相応しいのは、イオウオだけである。敬虔主義のゴットフリード・アーノルド(„Die Erste Liebe“「初めの愛」、„Ketzerhistorie“「異教者の歴史」)はこのような考えを表現した。神から来た事にあつて誇るのはいらないと彼は書いた。ただ、神を知るといふ恵みを受けたことにあつては誇れる(エレ 9:23; 一コリ 1:27-31; 二コリ 12:1)。

第一の点 七つの雷: 秘密のままである。終わりの時では、実現されなかったのは、何であったか? 広島と長崎の原爆投下以降、皆が恐れた核戦争であった。核兵器による恐怖の均衡はこの発展を長年抑えた。最近、トランプ氏以降、冷戦の話が復活された。中距離核戦力全廃条約の停止で、核戦争の可能性が戻ってきた。七つの雷は核兵器による世界の全滅と過剰殺害として音を出せなかったから、燭台の表(p.2)にいれなかった。第六のラッパの一部である。

第二の点 成就された奥義: 第七のラッパが鳴ると、神の奥義が成就されるから、もう時間がない(p.17を参照)。雲と虹(=地のための神の平和)を着るみ使いがそれを誓う。彼の顔が太陽のようである(=自由; 文字は殺し、霊は生かす; 二コリ 3:6)。彼の足は火の柱のようで、「来たりませ!」という靴を着用している(黙 22:17)。それはイオウオを喜ばせる。

第三の点 小さな巻物: 黙示録では、二本の本(巻物)がある:

- ① 七つ封印の巻物
- ② ここで述べた小さな巻物。封印がないので、そんなに分かりにくいである。それは神が備えた二種類の書き物の食物だと思う:
いろんな所でとつても分かりにくい聖書、そしてカイロス食物と「来たりま」の書き物である。

「来たりませ」は口(と心)の中で甘いである。幕屋の庭の香料に似ている。その後カイロス食物が来る。庭にある大量の塩のように、消化しにくいである→胃の中で苦くなる。それは悔い改めの意味である。「来たりませ」を聞く後に、カイロスの食物を聞くのが悔い改めに繋がる: その悔い改めを幕屋の庭での表すのは脂肪の灰である(脂肪=愛。その愛は悔い改めに繋がる)→すべてはイオウオへの献身を準備している(=燔祭の祭壇)。それはバプテスマに繋がる(=洗盤)。

ここで、「来たりませ」を改めて伝道し、予言する命令(黙 10:11)。最後の神の敵が殺されたまでに、伝道しつづけるような事がイザヤに命令された(イザ 6:8-13)。

第四の点 神殿の測定: 木の話で既に言ったように、杖のような測りざおは愛である。すべての宗教は神殿を構成する(人間の崇拜活動)。愛の測りざおは同時に愛を目的としている全体の聖書である(一テモ 1:5)。すべての崇拜は聖書に照らして裁きを受ける必要。すべて個人の崇拜者はこのような裁きを受けないといけない。興味深いことは、聖書では、グループ、民族と組織はいつも悪い印象をさせる。聖書は神のために忠実に戦っている人の模範の話をする本だと言いすぎない(≒イスラエル=神と祝福のために格闘している者)。その本は私たちにいつも人間の組織とその邪悪さを警告している。ユダヤ人をも、クリスチャンをも、そしていろんな国民をも、ほとんどのケースで非難している。本当にイスラエルの心の者はほめられ、模範にされる。あなたの忠実で神を負かし、神から祝福を受けると、愛と言う測りざお(黙 11:1)はあなたを非難しないであろう。そして、イエスが配っている印(エゼ 9:4,5)を受けるであろう。イエスは今コロナ、難民と人種的憎悪の非難で天から羊とやぎを分けている(マタ 25:32,33)。この分離活動はもうすぐ完成されると、ハルマゲドン実際の戦いが始まる(ヨブ 34:14,15;ゼカ 13:8,9;14:9;ゼパ 3:8-12)。

第五の点 神とクキリストの二人の証人: ゼカリヤ 4:11-14 で述べたように、二本のオリーブの木はその証人を表している。「燭台の右と左に置いてある」神殿では、契約の箱の上にシェキナ光が輝いている場所の右と左には大きな木造のケルビムがあった。シェキナ光がイオウオを表している。彼は光である(一ヨハ 1:5)。シェキナ光からモーセと話している声は言である(=イエスと聖書;詩編 119:105 を参照)。

それゆえに、言である聖書を完全に読んだ者はイエスを見たのである。イエスをしっかりとつんで行けるのか? 聖書を何回もよんでよ。祈りながら、内容について考えてよ。イエスを見た者は神も見たとイエスは言った(ヨハ 14:9)。この光は我慢できる?あるいは、契約の箱の上にある金箔のケルビムと同じように、目を守らないといけない?

油=愛;オリーブ=心。その心はよくオリーブのように苦いである。しかし、悲しみによって心を良くなる(コヘ 7:3)。だから、二本のオリーブの木はとっても良い心がるであろう。

この私の二人の証人はだれか?証人は後で打ち破られる。神の証人を本当に打ち破れるのは、罪のみである。だから、教訓を完成するために、ヨブとおなじように(ヨブ 38 章-42 章)最後の教えを受ける必要の油注がれた者かもしれない(一ペト 5:10)。その場合、本当に花嫁に属している。あるいは、天の目的を遂げれない証人かもしれない(「私の」なので、悪い僕でなく、君である;マタ 48-51)。殺され、よみがえて(=教訓)から、二人の証人は天に行くこと述べてある。結果的に、二人の証人は本当の花嫁一員であるに違いない(天に引き上げられる事に関する通信を参照;付録と www.iouo.de の HP にある)。

エリフのような花嫁一員もいるかもしれない。邪悪に打ち破られず、(罪によって霊的に)殺されされないから、よみがえる必要がない。それは油注がれた者の中で一番小さなグループである。彼らは招かれて、選ばれていて、忠実な思慮深い者である。そして、もう(共同管理者として)イエスの全財産の上に立てられた。彼らはこの世での歩みの教訓をすでに完成したが、ヨブのような(とその他)花嫁に属する油注がれた者を助けられるために、肉体の衣の中でこの世に残らないといけない。今しばらくの間、私はそのグループに属している。

(招かれた=初めに油注がれる事と聖霊によって設けられえる事;

選ばれた=まだ花嫁に属せず、ただ、永遠の生命を確保した → この世に留まる君はこのレベル以上進まない;

忠実=花嫁一員としての封印を受ける事=最終的な勝利(黙 7:3-8);

思慮深い=忠実な思慮深い僕(=Doulos の「奴隷」の翻訳は間違っていて、謙遜の振りをしている。聖書のギリシャ語とヘブライ語には、「奴隷」のみの意味の言葉がない。

イオウオは自分の子供のために、このような事は絶対に欲しくなかったから。

→ 「奴隷」は悪魔の発明である。皆が「忠実で思慮深い奴隷」に忠実に(“loyal”は政治から来ている表現)従わないといけない事、そしてこの「忠実で思慮深い奴隷」の一員が自画自賛している事は、悪魔の発明である。

イエスは尋ねる:「いったい、だれであろうが(マタ 24:45)? そうでない者は僕仲間をたたいて、たくさんの悪い事をしている)。

最後のステップ:全財産の上に立てられた。だから、最終的に教訓を受けた。もうそれ以上勉強しないという意味ではない。永遠に愛のニュアンスを勉強するであろう。神は模範である。神は愛の化身である(一ヨハ 4:8,16,)。神の愛のレベルは永遠に届かない(詩 103:11; 詩 113:4; 詩 148:13)。どの人間か創造物は神と一緒にされる(黙 15:4:「あなただけが聖なるかた」; ルカ 18:19:「神ひとりのほかによき者はいない」; 詩 71:19; 詩志 77:14; 詩 89:9; 詩 113:5:「神のようになる」)。

従って、二本のオリブ木は: ①忠実な油注がれた者と 既に花嫁に
②忠実で思慮深い注がれた者である。 属している。
最終的な封印
を受けた。

しっかりと封印を受けて、花嫁に属していない油注がれた者は、他の羊と同じように、二人の証人に付着している。ただ、「私の二人の証人」ではない。

二人の証人はいつ殺されたか? もう説明したように、1991年、エホバの証人は国連のNGO(非政府機関)になった時。同時に、色んな国で政府認定そして登録された公共団体になった(ドイツでは社団法人)或いはなるように努力した。無数の他の事も彼らを殺した(ただ、二人の証人は属していつ組織はエホバの証人のみではない。いろんな組織では二人の証人の一員がいる。しかし、花嫁一員の候補という油注がれた者の中で、君にしかねない者もいる。エホバの証人の中、他の組織の中、たくさんの邪悪な油注がれた者もいる。彼らは完全に倒れた。ただ、それはイエスと神の二人の証人が殺された事と関係がない)。

皆は主に個人で戦う者で、組織ではない。彼らは世界の宗教とキリスト教の木が結んだ、特に欠点のない、完全な実である。普段は、彼らの行いでわかる。「その実によって彼らを見わけるであろう」(マタ 7:16,20)。神の光の周辺に、ケルビムのような木である。木はたくさんの枝と小枝がるように、彼らはたくさんの人をイオウオの方に誘っている。それは組織と教会が必要でない。愛のために戦っている個人のみである。

二人の証人のよみがえりはどうなるか？彼らはどういう風によみがえるのか？おそらく、既によみがえたのか？

マタイ 25 章を参照：崇拜者と忠実な者の三つの分離
(私の本“Riddles of the Bible”「聖書の謎」を参照)

①油注がれた者 → 幕屋は三つの立方体がある

- a) 花嫁一員
- b) 君一員
- c) 悪い僕一員

②おとめ → 庭は二つの正方形がある

- a) 賢い、思慮深いおとめ
=すべてのキリスト教の宗派にある
忠実なクリスチャン
(幕屋の周辺) } 正しい者
- b) 思慮浅いおとめ
=印のないクリスチャン(エゼ 9:4,5)、
宗教の木には、ただの木材で、
殺される必要
(第一の正方形、庭の入口の後) } 正しくない者
+
よみがえない
悪いクリスチャン

③羊とやぎ → 宿営は三つの部分がある

- a) レビ人、祭司とモーセ
模範的な日キリスト教徒である
- b) 12 部族
生き残るための印(エゼ 9:4,5)を持っている
日キリスト教徒である
- c) 入り混じった群衆と病人(隔離を含む)
生き残るための印を持っていない日キリスト教徒である。
今のハルマゲドンで亡くなるだろう。あるいは既に亡くなった
(コロナ)

この比喻は全体の世界を表している(さらに進んだ情報:www.iouo.de)。ヨブは荒布と灰で悔い改めたの時、彼は二人の証人の一員としてよみがえた。まず、イオウオは彼と話す必要である(ヨブ 42:1-6)。あなたはもうこういう風に悔い改めたのか？

第六の点 二人の証人が地を打つ災害: 祈りでどんな世界の事件もについて話すかもしれない。

義人の祈は、大いに力がある(ヤコ 5:16)。選ばれた事を固定した花嫁の一員の祈りの方はさらに効果がある。イオウオが自分の意志の次第に、反応するかもしれない。願いを実現するかもしれない。例えば、現在の危機で、たくさんの小さな子供を救うかもしれない。それはこのような意味である。

第七の点 再び人の深淵の話: TOUM=ABUSSOS

獣は世界の政治である。倒れた人間、悪霊と悪魔が皆経験する深淵から、この獣が上がってくる。エホバの証人が(NGOとして)国連の一部になった事を達した。それは彼らを 1991 年に殺した。どうしてそれをしたのか？1981 年以降、「イオウオ」という神の御名を受け入れなかったからである。イオウオが力を取り上げた。祝福も取り上げた。今、1981 年以降、ほとんど 40 年間の荒野を歩いた事が終わった。今回はよみがえるだろうか？

第八の点 大規模の揺れ＝地震

それはコロナである。先例のない揺れ！通常の宗教活動で起こる(教会などで)の集会は政府によって禁止されたので、大いなるバビロンの十分の一が崩れた。もうすぐ、ハルマゲドンの第二の急襲では、バビロンという大きな都は全滅されるだろう。それはエホバの証人を含む。

多分、エホバの証人のよみがえりはどういう風に起こるだろうか？

せいぜい小さな一部(五人の思慮深い者)は自分の灯りを整えるだろう(マタ 25:7)。エホバの証人は(この悪いラベルと「神」の名をもってる組織として)もはやいないだろう。

第七のラッパの追加:

今日、コロナで困らせた国民はこのような落ち着かない、緊張する、いや怒り狂った態度(=ORGÄ)を確かに示している。

従って、ハルマゲドンの第一部(=コロナ部)の後に、最後の介入がもうすぐ来るだろう(黙 1:1: EN TAHEI=「早く」)。

今の時、この世の当惑させられた国は完全にイオウオとイエスの支配を受け(もう 1912 年、イエスはその中に部分的に支配する王として王位につかせられた)、彼らに所属するだろう(黙 11:15)。14 万 4 千人はそのために神に感謝する。出エジプト記 9:16 は今実現するだろう。マラキ書 3:16-4:6 も実現するだろう。

忠実な正しい者は皆神、優しい父イオウオ、から報いを受けるだろう。「死人」となった倒れた人間(そして正しくない者)は(本当の)死という罰を受けるだろう。邪悪な者は第二の死=永遠の非存在を受ける。正しくない者は一時の死を受ける。それは裁きのための正しくない者のよみがえりまでである(使 24:15)。忠実な油注がれた者(=聖人)、または神の御名イオウオ=יהוהに考えた者は、特に報いを受けるだろう。(化学物質、経済的搾取などで)地を滅びる者は、邪悪な者として滅びられるだろう(永遠の非存在)。

神殿は開かれるだろう。その意味なのは、すべての人間は、神の御名とそれに関する聖なるしるしを知るだろう。この www.iouo.de という HP では、には、それに関する情報をいろいろ提供した。

正しくない者のよみがえり (=裁きのためのよみがえり)

西暦 70 年エルサレムの神殿の破壊から 2300 年が経た後に、新しい世界秩序で聖所の復元がうまく完成されただろう。計算すると: 70+2300 → 西暦 2370 年。

666¹という数字はイエスの死から 2000 年を示すから、2033 年はイエスの千年王国の開始であろう。西暦 2370 年は、千年王国(=千年の安息日)の開始からの 337 年目であろう。それは千年の大体三分の一が経たの時である。その三分の一は聖所の復元を可能とする特別に聖になる時である。

聖書には第一のよみがえり(天のよみがえり)のほかに、三つの地上のよみがえりの話がある:

- ①さらに勝ったよみがえり(へブ 11:35)
- ②正しい者のよみがえり(命のため)(ヨハ 5:29;使 24:15)
- ③正しくない者のよみがえり(裁きのため)(同上)

三つの正方形(あるいは立方体)があった幕屋の構造は、その様式であるかもしれない:

- ①至聖所 ≡ さらに勝ったよみがえり:ここは君(油注がれた)と賢い忠実な者(油注がれていない)がよみがえる。賢明が人をより良くさせる。正しい者のために死ぬ者はいない。善人のために死者がいるであろう(ロー5:7)。
- ②至聖所への幕側の正方形(=聖所の第二の正方形、三つの祭具がある) ≡ 正しい者のよみがえり(命のため):よみがえりの時、すべての出来事は順番に起こると聖書が述べている(一コリ Kor 15:23,24)。

¹: 666 は 2000 の三分の一なので、この数字は 2000 を示す。人間を指す数字でもある。ピラトはイエスに指さして、「見よ、この人だ」と言った。イエスは本質的な人間だった。だから、イエスの死以降の 2000 年である。

今回は復元のための千年の三分の一のような神聖が必要ではない。 $337-333.33=3.66$ 。幕は3.66年である。その後、聖所が完全に聖別された。正しい者のよみがえりは千年王国の337年から667年(=666.66)までだろう。

③聖所へ入口幕側の正方形(=聖所の第一の正方形) ≡ 正しくない者のよみがえり(裁きのため):完全にパラダイスに復元された世界では、正しくない者のよみがえりが来る。この者はイオウオの心を一番感動させるから、このいわば「問題児」はイオウオのねぐらに入る。この幕屋の聖所正方形では、祭具がない。この時は空っぽだ。この裁きの正方形では、神が非常に愛している子供はどの道に歩むのか神が知らない。この正方形の裁きは千年王国の667年から1000年までである。今回も、入口の幕の3.66年も含んでいるであろう。それはパラダイスの任職式だと思う(もしかしたら、幕屋と神殿の任職式と同じように、KBUD IOUO が現れるだろう)。

女の出産の七つのもの
天でしか見られないしるし

黙 12 章と 13 章
燭台の右内側の炎

- 1) 女: 上なるエルサレム、私たちの母
黙 12:1 =天にいる、すべての賢い、救われたみ使いである。イエスはその
(詳細 p.20) 頭である。
- 2) 竜: 悪魔である
黙 12:3
(詳細 p.20)
- 3) 子: 「イオウオ」という至聖な、忘れられた名前を復興する活動である(エ
黙 12:5 レ 23:27)
(詳細 p.21)
- 4) 天での戦い: ミカエル(=イエス)とそのみ使い(=14 万 4 千人の既によみがえた
黙 12:7 部分)は竜とその悪霊と戦って、勝利する。
(詳細 p.22)
- 5) 女の迫害: 上なるエルサレムが地上で行うすべての事(大分クリスチャンの内)
黙 12:13 は竜と悪霊に攻撃される。
(詳細 p.22)
- 6) 獣: すべての国を含む世界政治である。
黙 13:1 この獣の像:国連である。
(詳細 p.22)
- 7) 第二の獣: 支配力のある、世界の強国アメリカである。最近、中国がそれを超え
黙 13:11 る可能性がある
(詳細 p.26)

第1点の詳細:女

女はここで上なるエルサレム、自由で私たちの母である(ガラ 4:26)。賢い者は自由である。正しい者はまだ7たび倒れる(ただ、箴 24:16 によると毎回また起き上がる)。賢い者はもはや倒れないので、自由である。

天(と地上)で、誰かが自由であるのか？

- ① 賢いみ使いは自由である。それは天のエルサレムと違う。天のエルサレムはすべてのみ使いを含んでいるので、正しいみ使いとまた正しさを固定しなかったみ使いも含んでいる。
- ② イエスの花嫁のすてによみがえた一員。最終的な封印を受けられるために、賢さは最低限である(忠実で思慮深い僕は愛の中にいるから、ただ賢い者でない;全財産の上に立てられた忠実で思慮深い僕は、自己犠牲の愛を達した。彼らはギデオン(=イエス)実際の武器を執る者プラである。彼らの愛は隣人愛と兄弟愛に限っていない)。
- ③ イエスの花嫁のすてに封印を受けて、まだ地上にいる一員。地上にいても、上なるエルサレムの一部である。
- ④ このイオウオの妻の頭はイエス・キリストである。

女は子を出産した後に、地上で迫害されるから、③点目は大事である。

第2点の詳細:竜は悪魔である

悪魔は年を経た蛇(黙 12:9)、偽りの父(ヨハ 8:44)、エバを誘い込んだ蛇である。本質的な悪しき者である(主の祈りを参照)。

悪魔も頭である。イエスは女の頭であるところが一方、悪魔は悪霊と倒れた人間の頭である。彼はこの世の支配者である(一ヨハ 5:19)。策略、悪賢いと裏切り一杯の誘惑者である。6000年間の悪い行動の経験を持つ、邪悪の専門家である。

悪魔はこの世の神である。「パール」の裏に彼がいるから、「エホバ」の裏、そして「主」(「パール」=「主」)の裏には、実際の悪魔がいる。「神」と「神様」の裏にも、彼が隠している。だから、祈る時に神の「イオウオ」と言う御名を使用するのは、どんなに大事(重要)であろう。「エホバ」、「ヤハウェ」、「主」などを使用すると、祈りの宛先は不明確である。

→ 絶え間なく、神の僕を告発する者はこのような事を自分の告発で言い張っている(黙 12:10)。

悪魔は自分の告発によって、み使いが彼の側に移るように誘いたい。祈る時に明確な宛先を使用すると、み使いを守る事に繋がる。竜の尻尾を使って、み使いの三分の一を既に自分の側に引いた。確率計算により、最終的に 50%忠実なみ使いと 50%不忠実なみ使いになるのかな？五人の思慮深いおとめと五人の思慮浅いおとめである。悪魔の努力を抑えるように、私たちもこの点で全力を尽くそう。

第3点の詳細:子

「イオウオ」という至聖な、忘れられた名前を復元する活動である。

1977年には、精神分裂病のせいでアジアのある都会で夜中で迷って、ほっつき回った。突然に、白いズボンを着ている二人のみ使いを私の方に寄ってくるのを見た。彼らは私に言った(王上 19:13 により、昔、エリヤに言われた言葉と一緒に):「ここで何をしている?」彼らはドイツ語を話した。そして、その二人の男の人の一人は言った:「ああ、イサ・メシがやってくる!」。彼がビックリしていた。最初は青白の衣服を着ているみ使いがだれだと私が分からなかった。イエス(イサ・メシ=イエス・キリスト)が行かせたもう一人のみ使いだと思っていた。ヨハネと同じように、み使いの前で崇拜のためにひれ伏すと言う過ちを犯してしまう事を恐れた。だから、思い切って愛白の衣服の人の前に立って、敬意すらも表したくなかった。白いズボンのみ使いは多分服従の身ぶりを期待したから、笑った。イエスが色々な事を私に言った後に、「ホテルを案愛する」と言った:「あそこにはトラックがある。そのカバーの下で寝るのは十分だ」と私が答えた(快適なホテルがなかった強制収容所の囚人の事を考えた)。次には、彼は私の手を掴み(本当にイエスであったよ)、近くの警察官まで連れて行って、その国の言葉で警察官と話して、私をその警察官に手渡した。警察官は私を夜中でも空いている喫茶店に連れて行った。喫茶店には他の客さんがいなくて、私が夜中でしばらくその喫茶店で座っていたから、結局喫茶店を出て、再び夜中で街で迷って、ほっつき回った。イエスと別れる時、彼と握手をした。ちょうどその時、イエスは私のそれ以降の未来を自分の手に入れたと分かっている。

12歳の時、「エホバ」の語尾にある“h”(ドイツ語:“Jehova”;英語:“Jehovah”)を擁護し、それを直すのために、自分の人生を過ごしたいという決意をした。今でも自分の生涯の仕事だとおもっている。イエスにいただいた未来では、長年図書館で聖書を研究してから、יהוהという名前はローマの神「ユピテル」=「イオウオ・パーテル」(“Jupiter”=“IOUO-Pater”;語形変化:IOUIS, IOUE, IOUEM)と関係しているに違いないと分かった。ユピテルは父の役割の神である。ノアの時代では、יהוהはその父の役割の神であった。エトルリア人の経由でローマに伝えただろう(私の“The Name of God - A Paradise in Itself”「神のみ名—それ自体でパラダイスである」という本を参照)。

その発見を(たくさんの他の情報と同じように)エホバの証人の統治体に送った。何回も手紙を送ったが、一言の返事もなかった。1981/82年以降、「イオウオ」(IOUO)、神の唯一に正しい名前のために戦ってきた。その内、聖霊もその正確さを確認した。無数の聖書と歴史の証拠を集めて、それを2000年以降インターネットで発表した:www.iouo.de。まだ可能であれば、主は「統治体」に(マタ 23:10 → このタイトルはアメリカの経営用語の直訳である)この失敗で助けるようにと、ずっと祈っている。

今日まで、「エホバ」(“Jehova”)の語尾に“h”が付けていない。よりよい知識があったのに。この名の40年間荒野の歩いた事が終わった。ヨシュアの時、40年間荒野の歩いた事の後と同じように、イオウオがすべてのクリスチャンの圧迫された民に救いに繋がる解放をかなえてやるように(ヨハ 8:32 により、「真理は、あなたがたに自由を得させる。))。苦よもぎの星(黙 8:10,11)とその致命的な苦さからの解放があるように(苦さ=アロエ=ミルラ=メリオ=MRIO=イオウオの心の中の苦しさ)。

「子」は復興された「イオウオ」という御名である。まだ赤ん坊であうが、生まれていて、竜(マゴグのゴグ=悪霊のゴグ)が届かないイオウオの御坐にいる。この赤ん坊についての簡潔な情報はここまでである。www.iouo.de というHP(www.iouo.info と www.iouo-god.net を含めて)は今まで大きくなった赤ん坊である。私の破門された家族(と私)は、数万の世帯、世界中の図書館、宗教上の指導者、聖書出版協会、聖書翻訳者だのに、この名を伝道したから、この名はたくさんの心の中にいる状態もこの赤ん坊の一部である(その普及する活動は www.scribd.com で自分の名前でのいくつかの発表、www.sektenausstieg.net で D.O.G.としての発表、ツイッターで自分の名前での発表も含んでいる)。

和しと私たちの努力はただ弱い努力であったにちがいない。しかし、明らかに量よりも質であった(ヤコ 5:9,10; ヤコ 5:5,6; ヤコ 5:4; ヤコ 5:3 はエホバの証人の不動産取引に合う; ヤコ 5:17)。「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように」という祈り(二千年間で、数十億回祈られた)だけはもうすぐ実現しれないように。しかし、「御名が崇められますように」(マタイ 6 章; ルカ 11 章)という部分も実現されるように。そして、もうすぐ子の名と(無名の)聖霊の名によってだけでなく、本当に父の名によっても洗礼を受けれるように。イオウオという御名は無数のあるべき所がない。それはキリスト教でもそう、全世界でもそうである(ネへ 9:5,6)。

第 4 点の詳細:天での戦い ミカエル(=イエス)がサタンと悪霊たちと戦ったえる。

ミカエルが勝利する。今のところ、それ以上の思いつきがない。

第 5 点の詳細:女の迫害

すでに説明したように、女のまだ地上にいる部分が迫害される。その花嫁の一員として最終的の封印を受けた者はまだ地上にいるのに、もう上なるエルサレムに属している(それは「イオウオ」という神の御名の復元という赤ん坊を持っている者を除く。その者は黙 3:10 にとり、既に神の御坐という安全な所にいる)。神の本当の名前が人を保護する。だから、その名はずっと悪魔によって攻撃され、抑えられ、忘れさせられた(しかし、使 14:17 により、神のあかしがいつも存在した → Pistis Sophia; HP 他の本を参照、例えば„Das Wort ‚Herr‘ in der Bibel“「聖書における「主」と言う表現」)。

そうでしたら、この迫害は少数の花嫁一員にしか影響を及ぼさない。それで終わりなのか? いいえ。花嫁一員はイエスとしっかり結んでいて、集団的なキリストに、いわゆるキリストのからだにしっかり属している。その花嫁一員に無数の他のクリスチャン、興味を持つ者とクリスチャンの親戚が付着している。すべて忠実なクリスチャンは迫害されるだろう(火=試練)(ゼカ 13:8,9; マタ 10:22; マル 13:13; ルカ 21:12,17; ヨハ 15:20)。

第 6 点の詳細:獣 世界政治とそのすべての国家の組織である。

詳細はp.26 を参照(第四のみ使い)

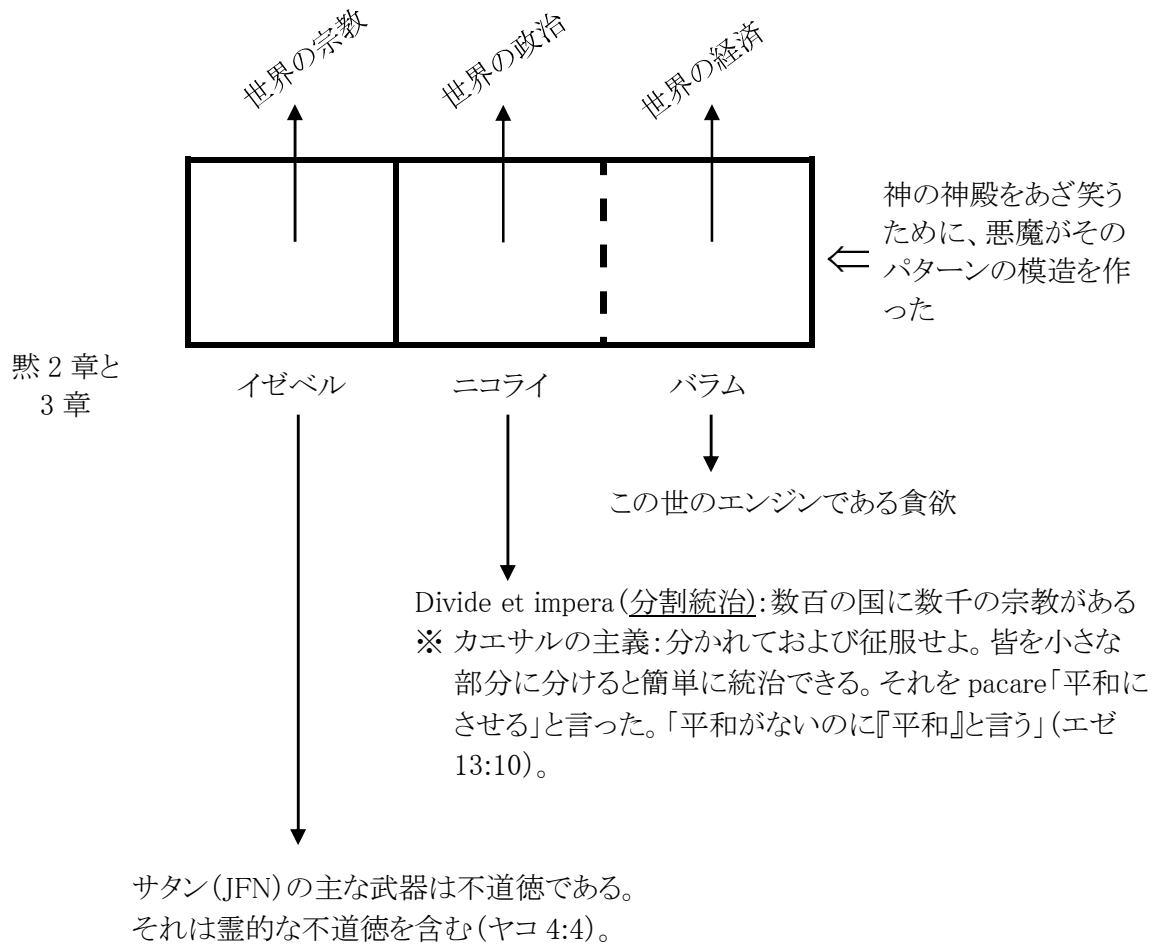
獣の像 = 国連

詳細もp.26 を参照(第四のみ使い)

第7点の詳細:羊のような第二の獣 ≒ アメリカ

アメリカを建国した巡礼者以降、イエスに向けてある振りをしているが、羊のようである。しかし、決して羊ではない。ただ、羊の振りをしている。自由の女神像はフリーメーソン団の象徴で、キリスト教の背教である。民主主義は決して繁栄の代名詞ではない。アメリカの軍国主義は全世界をいじめおうとしている。

三つの汚れた発言:



七人のみ使い

黙 14 章 燭台の右内側の炎

- 1) 第一のみ使い =「羊」
黙 14:4,14-16 =イエス(彼も鋭いかまを持っている)
彼と彼の父のために 14 万 4 千人が新しい歌を歌っている(黙 4:1-5)。
- 2) 第二のみ使い =「もう一人のみ使い」
黙 14:6,7 永遠の福音(=良い便り、良い知らせ、グッドニュース;私の本„Freudenachricht für unsere geliebten Kleinen“「私の愛しい子供たちための喜びの知らせ」を参照)。二億頭の馬、そしてイナゴがその伝道に参加している(黙 9 章)。
- 3) 第三のみ使い =「第二のみ使い」
黙 14:8 今日の主なメッセージ:
偽りの宗教=すべての宗教的組織は神の賛成を完全に失った。
大いなるバビロンが倒れた。
- 4) 第四のみ使い =「第三のみ使い」
黙 14:9-13 世界政治と国連(獣の像)、欧州連合など国家の連合を崇拝するのは、永遠の死に繋がる。
- 5) 第五のみ使い =「もう一人のみ使い」
黙 14:15,16 鋭いかまを持っている第一天使(=イエス)ではない。注意が必要。
イエスのかまでの分別活動を応援しているみ使いである。イエスは羊(印を持っている)とやぎを分別している。
- 6) 第六のみ使い =「もう一人のみ使い」
黙 14:17,
19-20 第二のかま(=死の切り付けのかま)を持っている:
人類の三分の二の中、コロナでまだ殺されていない部分が厳密な意味において殺される。
- 7) 第七のみ使い =「もう一人のみ使い」
黙 14:18 また応援のみ使いである。今回は大規模の屠殺のためである。